

## カリフオルニアの農場に見る

# 牧草と園藝

宮本晉司

在つたものは、アメリカの生活と密接に結びついた“牧草と園芸”でありました。寒冷地の農家の最も反省を要することは、北方農業の特異性を認識してこれに適合した経営方式を確立することにあると思います。特に冷・風害の引続いた今日、その必要をつくづく感じさせられます。

山岳を活用する農法についての概要であります。確かにされた感が深い。日本農業の生きる道はこの豊富な山岳を牧草を以て覆い、有力なる蛋白質の給源地として活用することに求めなければならないのではないでしょうか。最近わが国としてもこのような考え方で農業政策が行われはじめたことはよろこばしいことであるとアメリカの農業を見てつくづく感じた次第です。

牧草と農業

カリノベルニアでは農業の重要な要素として Water 水（治山、治水）Way 道路（交通）Work 勤労（能率労働）Wife（家庭の愛）の 4 W（四要素）を挙げておられます。が、この要素は現在の日本の農業にも直ちに通ずる重要なことががらではないでしようか。

農業に対してはアメリカでも国家の原動力としてわが国同様、国が各種の保護政策をとつてますが、古来日本の農業政策は穀菽農業万能であつて特に米、米、米と米作のために他のものが犠牲とされた感がないわけでもなかつた。したがつて農業は極めて狭い平坦地の生業として発展したが、山岳、高冷地の多い国情でありながらこの

が国未開の山野が到るところ牧草を以て覆われるならば自ずと安定した乳、肉、卵漬等の酪農が發展し、米による不足のエネルギーが補充せられ、食糧の確保と食生活の改善に役立つであらましよう。牧草は最も自然条件に適応した安全作物であると思います。この安全作物に農業の基盤を置くことが寒冷地の農業を安定する根本である

牧草というとなにか広大な牧場と粗放な経営を想像されるでしようが、カリフオルニアの農業の中に見る牧草は集約な農業に組合せられている。例えば主要な土地には生草の加工工場ができていて、アルファルファは乾燥粉末として養鶏飼料に加えられ、またアンゴラ兎の飼料として欠くことができない基礎飼料となっています。

花と生活

園芸農業の中花卉園芸はわが国でも今後年とともにますます発展するものと思われます。アメリカでは日常生活に花は切り離せないものとなつております。結婚式、誕生日は勿論各種の御祝にあるいは見舞いに慰めに哀悼にことごとく花を贈つております。これは人間の言葉ではない尽せない慶祝や慰めの気持を、捧げる花の持つ淡い香りと優しい感覺に托して贈るのであります。特に面白いことは白人の主婦の間に日本式の活花が流行して何々流というようなのが盛んに取り入れられ研究されていることであります。

人間で花を賞でないものはないでしょ  
うがアメリカでは居室、寝室はもちろん台所に手洗所に玄関にと必ず花が『投入』さ

くづくと感じたものであります。  
**カリフオルニアの園芸**  
カリフオルニアにおいても園芸農業は最も都市に近い地帯の農業で、生活も極めて豊かなようです。

草<sup>マ</sup>のもたらしてゐることをはつきり認識させられるのであります。

日本の農業にもそれぞれの地方に適する牧草が經營の中に取入れられさらば山岳、原野、河川敷、堤防、路傍等いたるところが牧草を以て覆われ日が来るならば全国農民の生活が一変されるであろうことをカリフォルニアの一農場の生活に在りし当時つ

れており、食卓には必ず花が置かれるといった具合で生活と花とは切り離されないものとなっています。

カリフォルニアの花卉園芸は日本の比でなく、完全に企業化されております。特にロスアンゼルス近郊やサンフランシスコ近郊には大規模な花卉農場が見られます。

日本でもアメリカのように日常生活にますます花が用いられるようになるでしょうし、今後都市に鉄筋コンクリートの高層建築が横比することを考えますと、四角の室の中の精神労働者も神経疲労の慰安を一轮の花に求めるのではないかでしょうか。このようなことを考えてみると日本の花卉園芸の前途はまことに洋々たるものがあり、特に都市近郊においては急速に発展するものと考えます。

### 大規模な蔬菜栽培

つぎに蔬菜園芸ですが、アメリカの蔬菜は日本同様生活必需食品として生食に確実に良くなっています。蔬菜の食べ方も十分に研究せられてこそはじめて眞理の個性を知ることができます。しかしまた尊重せられております。

アメリカでは日本の蔬菜園芸と違つて決して都市近郊のみ釣付けされておらないことであります。これは道路の完備と自動車の発達にも起因しておりますが、都市か

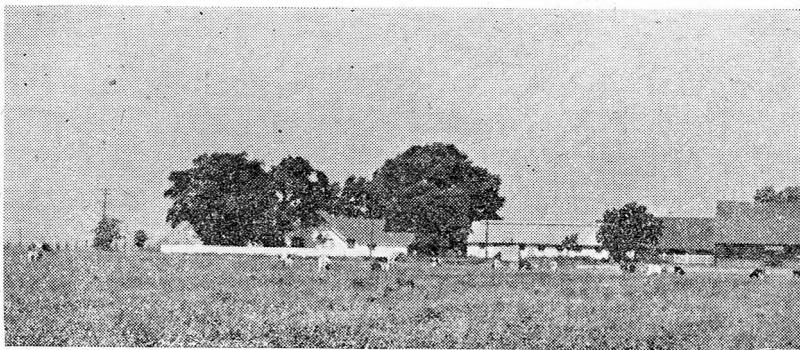
ら遠く離れた地価の安いところで極めて豊富に安価に生産せられ都會に出されているのであります。また蔬菜園芸の農場を見て

も一つの農場で各種のものを作るというの

でなくしてそれぞれの園主が最も得意とする

情景です。日本と国情はもちろん違います。が、蔬菜栽培と蔬菜の利用ということについて考えてみる必要があると思ひます。

### 果樹園芸



カリフォルニアの酪農家の遠望

最後に私の専門である果樹園芸についてであります。アメリカでも日本同様アップル(りんご)とオレンジは果実の中で最も重要なものとなっています。就中アップルの外ケーキ(パイ)で出しジャム、サイダーなどの入々は日本の菓子に代つて食後には生食として本当に豊富に羨ましくらい利用していることはカリフォルニア一年の生活でどここの農家の台所にも見出したことあります。果実の消費量はその国の文化のレベルを示すといわれておりますが至言であります。私は一ヵ年の大半を果樹園芸の農園で過したので經營と栽培技術について申し上げたいことも沢山あります。が何れ機会を捉えて申し上げることと致します。白人の經營、一世二世の方々の經營も見ました。が非常に心強いことは日本から渡米した果樹栽培者がカリフォルニアの土地で極めて成功している方々の多いということであります。白人の農家が經營不振のため手放しました。たような荒廢果樹園を購入して、僅か三四年の間に立派に再建している姿にも度々接したのであります。日本の果樹園の十倍十五倍くらいの面積を經營しておりますが、決して粗放栽培ではありません。經營に応じて機械化せられ能率化されておるわけで、自然条件をよく人工で支配しておるといえるでしょう。薬剤散布機(スピードスプレー)の発達等は実際に羨ましい限りで

ものでその農園の条件に合致するもの二種を専門的に栽培しておるのであります。したがつて栽培技術も深く探究せられると、それが、セルリー十町歩、草苺二十町歩等というような圃場はあちこちに見られる

す。果樹栽培を生業とする私には本当に貴重な体験を得た次第です。

### 日本農業の反省と私の夢

「牧草」と「園芸」こそ日本農業の進む道を示すものであると熟々カリフォルニアにて感じたことあります。日本の米、麦作等の穀物農業はもちろん重要であります。が、各所にその行きづまりの実態を聞くところであり、さらに今後未開の山野あるいは特種土壤の地帯に向つてどの程度の進展が期待できましよう。私達農民の進むべき道をこのカリフォルニアの実習体験が如実に教えてくれたわけであります。

私の夢は花木に包まれた住み心地よい住宅に入つて、各室は勿論テーブルには四季折々の花が飾られ、食卓には栄養豊富で新鮮な肉卵が載せられ、果物や蔬菜を盛つて楽しむという一家團欒の時を持つことにあります。そのためには「牧草」と「園芸」が全国都々浦々にまで浸透して全土が全農民挙つて夢の実現への努力を継続したいと思います。そのためには「牧草」と「園芸」が農民においては最も手近かにあるわけで全農民挙つて夢の実現への努力を継続したいと思います。そのためには「牧草」と「園芸」が全国都々浦々にまで浸透して全土が牧草をもつて覆われる日が一日を早からんことを希うものであります。しかしてはじめに日本農村経済が安定し、次代を負う青少年が進んで花と果物とミルクの農村生活を愛し且つ楽しみ、よいよ理想郷土建設への努力を続けて行くのではないでしょ

うか。

カリフォルニア実習一ヵ年の感想を述べて筆を置きます。(筆者は北海道余市町、昭和二十九年度渡米農村青年)